

日本近海の絶滅のおそれのあるサメ

## ヒラシュモクザメ

IUCN レッドリストより抜粋・翻訳

**学名** : *Sphyrma mokarran*

**英名** : Great Hammerhead, Hammerhead Shark, Squat-headed Hammerhead Shark

**レッドリストのカテゴリー** : 絶滅危惧 IB 類 (EN) A2bd+4bd Ver3.1

**評価年** : 2007

### レッドリスト掲載の理由 :

大型で、広く分布する南洋シュモクザメは、おおむね大陸棚に生息している。この種はひれが珍重され（漁業対象、偶発的捕獲）、混獲率も高く、また繁殖が 2 年に 1 回であることから、過剰漁獲などによる涸渇が起きやすい。

一般に群れをつくらないと考えられており、そのため、生息数が豊富だとは考えにくい。以前は、モーリタニアからアンゴラの海域で見られ、11 月－1 月はセネガル、10 月にはモーリタニアに多数生息すると言われていたが、その後激減して、地域漁業委員会の参加国により、絶滅危惧種 4 種のひとつと認められた。この種についての調査資料はひじょうに少ないが、近年ほとんど記録のないことから、過去 25 年間に少なくとも 80% は減少したのではないかと考えられている。

この種に対する漁業管理も監視も行われていない東大西洋では、絶滅危惧 I A 類 (CR) と評価されている。北大西洋とメキシコ湾では、漁業対象ではないが、他の漁業の混獲で獲られ、また(捕獲数の) 90% 以上が、船舶の犠牲になっている。

2 回シリーズの一組のデータ（遠洋航海日誌、大規模遠洋調査）は、1986 年以降の減少を示す。識別や厳密な記録の困難なことがこの種の評価をひじょうに難しくしている。

しかしながら、捕獲されると死にやすいため、直接であれ偶発的であれ、漁業圧に対してたいへん弱い。北大西洋とメキシコ湾では、過去 10 年余りにわたって捕獲量が半減したことから、危惧種とされている。この減少の記録は乏しく、減少幅は縮小していない。

インド洋南西部では、1978 年－2003 年の間に 79% まで捕獲量が減ったという調査報告に基づいて危惧種に指定された。しかし、この減少の記録がごく限られた地域的なものか、あるいは南西インド洋全域の状況を反映しているのかはよくわからないが、西インド洋の沿岸水域で、シュモクザメやサカタザメ (*Rhynchobatus djiddensis*) を主目的に多数の外洋船が不法操業を行っているという報告がある。

ヒラシュモクザメはオーストラリアの北部沿岸でも見られる。オーストラリア北部ではここ数年、違法・未規制・無届け (irregular, unregulated and unreported, IUU) の漁業がかなり増え、このサメ類の大型で高価なひれが狙われる状況が非常に懸念されている。最近の北部豪州板鰓類 (エイ、サメ等) リスク評価では、恐らく高危険度とされているが、厳密な評価の基準を決められるだけの調査資料が不足している。そのため現在のところオーストラリアでは“データ不足”種とみなされている。この種に関してはさらなる調査が望まれる。

**生息数の動向** : 減少

**生息域と生態：**ヒラシュモクザメは沿岸、遠洋、半大洋性の南海シュモクザメで、海岸近くでも沖合でも見られ、大陸棚、島嶼段丘、珊瑚礁の水路や潟にも、陸に近い海域の水面近くから 80m 辺りまでの深さのところにも生息する (Compagno in prep.b)。

繁殖は 2 年に 1 回である (Stevens と Lyle, 1989)。北半球では晩春から夏に、オーストラリア付近では 12 月から 1 月に生まれる (Compagno in prep.b, Last と Stevens 1994)。

食餌は魚 (おもに底魚) と他の板鰓類、甲殻類、頭足類を含む (Compagno in prep.b)。Strong 他 (1990) によって、大型のシュモクザメ (約 4m) が南洋アカエイを捕食しているのが目撃されている。

NPO 法人 野生生物保全論研究会 (JWCS)

TEL/FAX : 03-5425-6323 URL: <http://www.jwcs.org>

